

新旧対照表

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
全			目次、扉、タイトル、中タイトル、柱部 および	目次、扉、タイトル、中タイトル、柱部 及び
全			目次、扉、タイトル、中タイトル、柱部 <u>ならび</u>	目次、扉、タイトル、中タイトル、柱部 <u>並び</u>
1	6	10行目	～を目的としたクリニカル・パス、EBM ～	～を目的としたクリニカルパス、EBM ～
1	7	14行目	(Hippocrates : B.C.460 ～ 377)	(Hippocrates : B.C.460 ～ 377)
1	15	15行目	細菌学・免疫学の進歩とともに、 <u>受動免疫</u> を～	細菌学・免疫学の進歩とともに、 <u>能動免疫</u> を～
1	17	15行目	(ESD : endoscopic submucosal <u>resection</u> )	(ESD : endoscopic submucosal <u>dissection</u> )
1	21	23行目	この時代に行われた制度的改革を年代順に列記する。	この時代に行われた制度改革を年代順に列記する。
1	30	下から 11行目	～含まれる。また、医療が <u>営利</u> を～	～含まれる。また、 <u>医療行為</u> が <u>営利</u> を～
1	31	下から 11行目	5. ～誰もが受容しうる <u>終末期医療</u> を目指す。	5. ～誰もが受容しうる <u>看取りのあり方</u> を求める。
1	31	下から 9行目	～その一方で、 <u>終末期医療</u> に対する～	～その一方で、 <u>人生の最終段階</u> における <u>医療</u> に対する～
1	31	下から 2行目	～誰もが受容しうる <u>終末期医療</u> をめざす。	～誰もが受容しうる <u>看取りのあり方</u> を求める。
1	33	1行目	脳死判定医：(1) 倫理委員会等において～	法的脳死判定医：(1) 倫理委員会等において～
1	40	2行目	～の一部を改正する法律案 (2017年施行)	～の一部を改正する法律 (2017年5月30日施行)
1	51	17行目	～および大阪府立成人病センターなどが～	～および大阪国際がんセンターなどが～
1	53	15行目	～ <u>地域保険</u> の中心的な～	～ <u>地域保健</u> の中心的な～
3	113	1行目	<u>病気</u> になる原因	<u>健康と疾病</u>
3	114	下から 5行目	～性染色体 (計46 <u>個</u> ) から～	～性染色体 (計46 <u>本</u> ) から～
3	114	下から 3行目	～X染色体が2 <u>個</u> 、男性では～	～X染色体が2 <u>本</u> 、男性では～
3	117	11行目	<p>生体が外敵から自己を守る特別な働きを免疫という。たとえば、細菌やウイルスが体内に侵入すると、これを非自己と認識する機構が働き、微生物に対する抗体を産出して感染を防御する。この免疫機能にかかわる細胞は、骨髄由来のB細胞 (体液性免疫を担当) と胸腺由来のT細胞 (細胞性免疫を担当) があり、それぞれ特有な機能を有する。</p> <p>この機構に異常を生じると、免疫不全となる。この免疫不全の一種に自己免疫がある。本来、自己の組織に対しては反応しないはずの免疫機構が種々の原因により作動し、自己の組織に対して免疫反応が生じて障害をおこすもので、自己免疫疾患と呼ばれる。</p> <p>甲状腺の橋本病、後天性溶血性貧血などがそれである。</p>	<p>生体が外敵から自己を守る特別な働きを免疫という。たとえば、細菌やウイルスが体内に侵入すると、これを非自己と認識する機構が働き、微生物に対する抗体を産生して感染を防御する。この免疫機能にかかわる細胞には、骨髄由来のBリンパ球 (体液性免疫を担当し、抗体を産生する) と胸腺由来のTリンパ球 (細胞性免疫を担当する) がある。</p> <p>この機能に異常を生じた病態には、自己の組織に対して免疫反応が生じる自己免疫疾患、免疫機能の過剰反応であるアレルギー、免疫機能の機能低下である免疫不全の3種類がある。</p>

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
3	117	下から12行目	免疫反応が生体にとって不利な現象をおこすことがある。これをアレルギーという。基本的には免疫機能の過剰反応の一つと考えられる。アレルギーには、以下の4種類が存在する。	免疫機能の過剰反応をアレルギーという。アレルギーは生体にとって不利な現象と言うことができ、以下の4型に分類される。
3	118	11行目	生体は、外界からの異物に対するのみならず自己の成分に対してもアレルギー反応をおこすことがある。これを自己アレルギーと呼び、これが原因となり病態が生じたときには、自己免疫疾患と呼ぶ。自己免疫疾患は全身性の疾患であるが、臓器特異性のない疾患と、特異性のある疾患の2つに大別される。 このような自己免疫疾患には、多彩な自己抗原の存在が知られている。	生体は、外界からの異物に対してのみならず自己の組織に対しても免疫反応をおこすことがある。これを自己免疫と呼び、これが原因となり病態が生じたときには、自己免疫疾患と呼ぶ。 自己免疫疾患には、全身性のものと、特定の臓器が影響を受けるものがある。前者の例としては関節リウマチやSLEなどの膠原病、後者の例としては甲状腺が障害される橋本病がある。このような自己免疫疾患には、多彩な自己抗原の存在が知られている。
3	133	下から3行目		12. 出生前診断  妊娠中に胎児が何らかの疾患に罹患していると思われる場合に、その正確な病態を知る目的で、染色体検査・遺伝生化学的検査・遺伝子診断等、各種遺伝学的検査が行われることがある。 これらは通常の臨床検査とは異なり、その意義や結果の解釈には生命倫理的に留意すべき多くの課題があるため、適正な遺伝カウンセリングが提供できる体制下で実施すべきである。
3	133	下から3行目	12. 細胞診検査	13. 細胞診検査
3	134	1行目	13. 病理組織検査	14. 病理組織検査
3	134	4行目	14. 病理解剖	15. 病理解剖
3	137	3行目	無脳症 Anencephaly (Q00)	無脳症 Anencephaly (Q00.0)
3	138	1行目	先天性水頭症 Hydrocephalus (Q03)	先天性水頭症 Congenital hydrocephalus (Q03)
3	149	14行目	【漏斗胸 funnel breast】	【漏斗胸 funnel chest】
3	149	20行目	【鳩胸 pigeon breast】	【鳩胸 pigeon chest】
3	151	3～4行目	～相同染色体が2個入った配偶子が受精すると、もう片親の配偶子と合わせて3個の～	～相同染色体が2本入った配偶子が受精すると、もう片親の配偶子と合わせて3本の～
3	151	11行目	第21番染色体が3個あることから染色体数は47個で～	第21番染色体が3本あることから染色体数は47本で～
3	158	8行目	脳実質に挫滅をおこし、脳実質または脳表面の血管からの出血により硬膜下に血腫が形成された状態。脳実質損傷が強いため、受傷直後から意識障害をみることが多い。 大脳半球部の硬膜下血腫は、大開頭による血腫除去、減圧開頭術が行われる。大脳半球間や頭蓋底部の血腫は保存的治療が原則である。 予後は合併する脳実質損傷や頭蓋内圧亢進、脳ヘルニアによる二次的障害の程度による。 揺さぶられっこ症候群では、乳児の頭部が激しくゆさぶられることによって脳表面の血管が断裂し、外傷性硬膜下出血が引きおこされることがある。	脳実質に挫滅をおこし、脳実質または脳表面の血管からの出血により硬膜下に血腫が形成された状態。脳実質損傷が強いため、受傷直後から意識障害をみることが多い。大脳半球部の硬膜下血腫は、大開頭による血腫除去、減圧開頭術が行われる。大脳半球間や頭蓋底部の血腫は保存的治療が原則である。予後は合併する脳実質損傷や頭蓋内圧亢進、脳ヘルニアによる二次的障害の程度による。揺さぶられっこ症候群では、乳児の頭部が激しくゆさぶられることによって脳表面の血管が断裂し、外傷性硬膜下出血が引きおこされることがある。
3	170	20行目	2. 手関節および手の関節および靭帯の脱臼、捻挫およびストレイン (S63)	2. 手首及び手の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン (S63)

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
3	170	21行目	1) 手関節の脱臼 (S63.0)	1) 手首の脱臼 (S63.0)
3	170	下から4行目	2) 指関節脱臼 (S63.1)	2) 指の脱臼 (S63.1)
3	185	2行目	天然洗剤、合成洗剤とも毒性は低く、小児の誤飲程度では重篤な中毒には至らない。	天然洗剤、合成洗剤とも本来毒性は低いが、ジェルボール型洗剤は濃縮されているため、小児が誤って口にしたり飛散した洗剤が目に入ったりすると重度の症状を引き起こすことがある。
3	185	4行目	口腔、咽頭の炎症、嘔吐、下痢、しゃっくりなど。	口腔、咽頭の炎症、嘔吐、下痢。濃縮された洗剤が目に入った場合には角膜損傷。
3	185	6行目	牛乳、卵白などを与え様子をみる。大量服用時は催吐させる。 大量誤飲の場合、添加物（ケイ酸塩やエタノールなど）の作用で消化器刺激症状や中枢神経抑制症状が現れることがあるので対症療法を行う。	誤飲した場合はまず水で口をすすぎ、水や牛乳、卵白などを与え様子をみる。目に入った場合はこすらずに水で洗い流す。 大量誤飲の場合、添加物（ケイ酸塩やエタノールなど）の作用で消化器刺激症状や中枢神経抑制症状が現れることがあるので対症療法を行う。
3	193	8行目	タバコの毒性成分はニコチンで、タバコ1本に含まれるニコチンの量は7～18mgくらいである。ニコチンの成人致死量は40～60mgで、猛毒といわれる青酸カリ（成人致死量200～300mg）や、自殺などによく使用される農薬のパラコート（同2,000mg）よりも、はるかに毒性が強い。 喫煙によるニコチンの摂取量は、タバコ1本に含まれるニコチン量の数%であり、急性中毒に至ることは稀である。また、タバコを誤食した場合は、胃液の酸性によりニコチンの溶出が悪く吸収が遅くなることと、吸収されたニコチンの催吐作用により、致命的な事故は稀である。 ただし、タバコの滲出液は吸収が速いため、タバコの吸殻の入っていたジュース、ビールなどの誤飲や、自殺目的での滲出液の服用では重篤な中毒症状をおこす。	タバコはわが国の小児誤飲事故の約20%と最多を占め、1%未満である欧米と対照的である。年齢では6～18ヶ月の乳幼児に集中しており、ハイハイの始まる時期とわが国の住居環境との関連が指摘されている。 タバコの有毒性分はニコチンであるが、成人における致死量は40～60mg、乳幼児では10～20mgである。タバコ1本あたりに含まれるニコチンは7～18mgであるから、乳幼児ではタバコ0.5本～1本が致死量になりうる。味覚的に食べにくいこと、胃の酸性度によりニコチンの吸収が抑制されること、ニコチンの催吐作用があることなどにより、致命的な事故は稀である。 一方、タバコの吸殻の入った缶ジュースなど、タバコの滲出液は吸収が速く、重篤な中毒症状をおこしうる。また、加熱式タバコ・電子タバコについても、燃焼式タバコと同様の危険性があるとみなして取り扱うべきである。
3	193	18行目	通常みられる幼児の誤食の主症状は、～	通常みられる幼児の誤飲の主症状は、～
3	193	下から6行目	催吐、胃洗浄などの一般的な中毒に対する処置。 幼児が舐めた程度あるいはごく少量の摂取と考えられる場合は数時間程度の経過観察でよい。 重症例では気道、静脈路の確保など、救急救命処置を最優先する。 ニコチンに対する特異的拮抗薬はなく、自律神経症状（流涎、下痢など）やけいれん、過度の興奮に対しては対症療法を行う。	乳幼児がタバコを2cm以上誤飲したと考えられる場合は、吐かせて医療機関を受診する。この際、水分は摂取させない。 催吐を試みるが、摂取が少量と考えられる場合、症状・所見に乏しい場合は経過観察となることが多い。タバコの滲出液を誤飲した場合は、胃洗浄を行う。 重症例では気道、静脈路の確保など、救急救命処置を最優先する。 ニコチンに対する特異的拮抗薬はなく、自律神経症状（流涎、下痢など）やけいれん、過度の興奮に対しては対症療法を行う。
4	197	14行目	～土壤中などでも増殖できるのがウイルスとの違い。～	～土壤中などでも増殖（自己複製）できるのがウイルスとの違い。～
4	197	16行目	2) ウイルス：一番小さな病原微生物で、動物細胞に～	2) ウイルス：一番小さな病原微生物で、核酸しか保有せず、動物細胞に～
4	197	18行目	～観察できない	～観察できない。核酸の種類により、DNAウイルスとRNAウイルスに分類される。
4	197	下から6行目	*真核生物：核膜に包まれた核をもつ細胞からなる生物。	*真核生物：核酸が核膜に包まれた核をもつ細胞（真核細胞）からなる生物。ヒト、動物、植物などは真核生物。

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
4	197	下から5行目	*原核生物：核膜に包まれた核をもたない細胞からなる生物。細菌が代表例。	*原核生物：核膜で包まれた核をもたず、細胞質にDNAが直接露出している細胞（原核細胞）からなる生物。細菌が代表例。
4	201	表上部2行目	(平成28年11月)	(平成30年5月1日)
4	201	表内部全数把握	7日以内 五類 (22 疾患) 1) アメーバ赤痢 2) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く) 3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4) 急性脳炎*4 5) クリプトスポリジウム症 6) クロイツフェルト・ヤコブ病 7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 8) 後天性免疫不全症候群 9) ジアルジア症 10) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 11) 侵襲性髄膜炎菌感染症 12) 侵襲性肺炎球菌感染症 13) 水痘*5 14) 先天性風しん症候群 15) 梅毒 16) 播種性クリプトコック(カ)ス症 17) 破傷風 18) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 19) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 20) 風しん 21) 麻しん 22) 薬剤耐性アシネトバクター感染症	12、22、23は直ちに。その他は7日以内 五類 (24 疾患) 1) アメーバ赤痢 2) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く) 3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4) 急性弛緩性麻痺性(急性灰白髄炎を除く) 5) 急性脳炎*4 6) クリプトスポリジウム症 7) クロイツフェルト・ヤコブ病 8) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 9) 後天性免疫不全症候群 10) ジアルジア症 11) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 12) 侵襲性髄膜炎菌感染症 13) 侵襲性肺炎球菌感染症 14) 水痘*5 15) 先天性風しん症候群 16) 梅毒 17) 播種性クリプトコック(カ)ス症 18) 破傷風 19) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 20) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 21) 百日咳 22) 風しん 23) 麻しん 24) 薬剤耐性アシネトバクター感染症
4	201	表内部定点把握	週または月単位 五類 (26 疾患) 1) RSウイルス感染症 2) 咽頭結膜熱 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 4) 感染性胃腸炎 5) 水痘 6) 手足口病 7) 伝染性紅斑 8) 突発性発しん 9) 百日咳 10) ヘルパンギーナ 11) 流行性耳下腺炎 12) インフルエンザ*6 13) 急性出血性結膜炎 14) 流行性角結膜炎 15) 性器クラミジア感染症 16) 性器ヘルペスウイルス感染症 17) 尖圭コンジローマ 18) 淋菌感染症 19) 感染性胃腸炎*7 20) クラミジア肺炎 (オウム病を除く) 21) 細菌性髄膜炎*8 22) マイコプラズマ肺炎 23) 無菌性髄膜炎 24) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 25) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 26) 薬剤耐性緑膿菌感染症	週または月単位 五類 (25 疾患) 1) RSウイルス感染症 2) 咽頭結膜熱 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 4) 感染性胃腸炎 5) 水痘 6) 手足口病 7) 伝染性紅斑 8) 突発性発しん 9) ヘルパンギーナ 10) 流行性耳下腺炎 11) インフルエンザ*6 12) 急性出血性結膜炎 13) 流行性角結膜炎 14) 性器クラミジア感染症 15) 性器ヘルペスウイルス感染症 16) 尖圭コンジローマ 17) 淋菌感染症 18) 感染性胃腸炎*7 19) クラミジア肺炎 (オウム病を除く) 20) 細菌性髄膜炎*8 21) マイコプラズマ肺炎 22) 無菌性髄膜炎 23) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 24) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 25) 薬剤耐性緑膿菌感染症
4	202	8行目	1) 潜伏期は感染24～48時間。	1) *潜伏期は感染24～48時間。
4	202	13行目に追加		*潜伏期：病原微生物(病原体)が侵入してから発症するまでの期間。潜伏期間ともいう。
4	207	8行目5行目	～する(一次結核症)。病変は気管支、肺にとどまらずリンパ節、骨、関節、腎、髄膜など諸臓器をおかす(肺外結核)。成人の結核は～	下線部を5行目に移動→腸結核は次に多い。病変は気管支、肺にとどまらずリンパ節、骨、関節、腎、髄膜など諸臓器をおかす(肺外結核)。結核菌は抗酸菌で～
4	208	下から2行目	～検査より特異性が高い。新しく結核菌に～	～検査より特異性が高い。接触者検診、新しく結核菌に～
4	209	4行目	～治療を行っても発病する可能性はある。	～治療を行っても発病する可能性はある。IGRA検査は活動性肺結核の補助診断にも利用される。
4	214	下から8行目	人畜(獣)共通感染症で感染動物の牛乳、食肉、チーズ、二次感染野菜などの経口摂取により腸管内より血中に菌が侵入。グラム陽性無芽胞桿菌で4℃でも増殖する為、保存食でも注意。	自然界に広く分布するリステリア菌(Listeria monocytogenes)による人畜(獣)共通感染症。牛や羊の感染動物から作られたナチュラルチーズ、生ハムなどの経口摂取で感染する。4℃以下の低温でも増殖するので注意が必要である。
4	214	下から4行目	髄膜炎型が最多。妊婦の感染では子宮内で胎児に垂直感染し、流産や死産の原因、新生児髄膜炎を発症。	インフルエンザ様症状、食中毒(日本では報告例はない)、重症例では髄膜炎や敗血症を引き起こす。妊婦の感染では子宮内の胎児に垂直感染し、流産や早産の原因となる。

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
4	214	下から1行目	ペニシリンG、アンピシリン、エリスロマイシン投与。	アンピシリン、エリスロマイシン投与。
4	216	下から5行目	近年成人発症例が増加している。	削除
4	218	4行目	髄膜炎菌の飛沫感染によって～	髄膜炎菌(ナイセリア)の飛沫感染によって～
4	219	8行目	1) レンサ球菌 (A40)	1) 連鎖球菌 (A40)
4	221	下から2行目に追加		マイコプラズマ感染症は肺炎の他に、全身臓器に及ぶ多彩な肺外症状を呈することがある。これはマイコプラズマに対する宿主の免疫応答の結果、全身の血管炎や神経炎が生じ、皮膚炎、脳炎、心筋炎、関節炎などを呈する。
4	222	4行目	レンサ球菌	連鎖球菌
4	224	18行目から20行目	(2) レンサ球菌 ①化膿レンサ球菌 ②緑色レンサ球菌群 ③肺炎球菌：双球菌の形をとる	(2) 連鎖球菌 ①化膿連鎖球菌 ②緑色連鎖球菌群 ③肺炎球菌：双球菌の形をとる
4	225	7行目	【症 状】 1) *潜伏期は約10日～30日。 2) 臨床病期は4期に分類される(第1、2期は早期梅毒(A51)、第3、4期は晩期梅毒(A52))。 第1期：紅斑が出現しすぐに丘疹となり潰瘍化する。境界がはっきりして痛みや圧痛もなく出血も少ない。(硬性下疳(A51.0)) 第2期：3～6週間後にバラ疹、倦怠感、全身のリンパ節腫脹。	【症 状】 臨床病期は4期に分類される(第1、2期は早期梅毒(A51)、第3、4期は晩期梅毒(A52))。 第1期：感染後3週間すると、外陰部に初期硬結、潰瘍化した硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹が生じる。放置していても自然消退する。 第2期：約3ヶ月後に梅毒トレポネーマが血行性に散布されて、バラ疹などの皮疹、外陰部の扁平隆起性丘疹である扁平コンジローマなどが生じ、消長する。
4	225	16行目	*潜伏期：病原微生物(病原体)が侵入してから発症するまでの期間。潜伏期間ともいう。	削除
4	226	6行目	淋菌(ナイセリア菌)による感染。	淋菌(ナイセリア)による感染。
4	229	9行目	ペニシリン系、テトラサイクリン系、クロラムフェニコール系抗菌薬が有効。	ペニシリン系、テトラサイクリン系抗菌薬が有効。
4	232	下から10行目	テトラサイクリン系とクロラムフェニコール系抗菌薬が有効。	テトラサイクリン系抗菌薬が有効。
4	233	下から2行目	1) テトラサイクリン系抗菌薬が有効。その他、クロラムフェニコール、リファンピシン。	1) テトラサイクリン系抗菌薬が有効。その他、リファンピシン。
4	235	1行目	Creutzfeldt-Jakob disease [CJD] (A81.0)	Creutzfeldt-Jakob disease [CJD] (A81.0)
4	235	9行目	Subacute sclerosing panencephalitis [SSPE] (A81.1)	Subacute sclerosing panencephalitis [SSPE] (A81.1)
4	235	15行目	Progressive multifocal leukoencephalopathy [PML] (A81.2)	Progressive multifocal leukoencephalopathy [PML] (A81.2)
4	237	下から7行目	乾燥細胞培養ワクチンを使用。定期接種。	不活化ワクチンを使用。定期接種。
4	238	下から5行目	西ナイル熱 West Nile virus infection (A92.3)	西ナイルウイルス感染症 West Nile virus infection (A92.3)
4	238	下から3行目	蚊によって媒介、熱帯から～	蚊を媒介としたウエストナイルウイルスの感染症で、熱帯から～

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
4	240	12行目から14行目	ヘルペスウイルス群の一つである単純ヘルペスウイルス (Herpes simplex virus) の感染。 飛沫、性交(接触)、垂直感染をおこす。STD (sexually transmitted disease: 性感染症) の一つとしても重要。	ヘルペスウイルス群の一つである単純ヘルペスウイルス (Herpes simplex virus、HSV) の感染。 <u>DNA ウィルス。</u> 飛沫、性交(接触)、垂直感染をおこす。STD (sexually transmitted disease: 性感染症) の一つとしても重要。HSV は HSV- 1 と HSV- 2 の2型に分類される。HSV- 1 は主に顔面、特に口唇に再発し、HSV- 2 は主に下半身、特に性器に再発する。しかし、実際は性器ヘルペス感染症の約70%は HSV- 1 によるが、この場合には再発をきたすことはまれ。
4	242	2行目	1980年 WHO は～	天然痘とも呼ばれる。痘瘡ウイルスはDNAウイルス。1980年 WHO は～
4	244	1行目	12. ウィルス肝炎 (B15-B19)	12. ウィルス性肝炎 (B15-B19)
4	244	2行目	急性ウィルス肝炎 Acute viral hepatitis (B15-B17)	急性ウィルス性肝炎 Acute viral hepatitis (B15-B17)
4	245	一番下に追加		6) 平成28年10月からB型肝炎ワクチンが予防接種法に基づく定期接種となった。水平感染予防的で、不活化ワクチンを生後2、3、7～8ヶ月の3回接種する。
4	246	1行目	慢性ウィルス肝炎 Chronic viral hepatitis (B18)	慢性ウィルス性肝炎 Chronic viral hepatitis (B18)
4	246	4行目	～B型、C型ウィルス肝炎に～	～B型、C型ウィルス性肝炎に～
4	247	8行目	～増殖の結果CD4陽性リンパ球の減少や欠乏、機能障害、細胞性免疫能の低下～	～増殖の結果CD4陽性リンパ球の減少、機能障害、細胞性免疫能の低下～
4	247	16行目	2013年時点では世界のHIV陽性者数は3,500万人と～	2016年時点では世界のHIV陽性者数は3,670万人と～
4	247	18行目	*日和見感染: <u>宿主や組織の防御能力の低下した状態での感染。</u>	*日和見感染: <u>正常の宿主に対しては病原性を発揮しない病原体が、宿主の抵抗力が弱っている時に病原性を発揮して起こる感染症。</u>
4	247	下から9行目	～次いで帯状疱疹 (B20.3)、全身性結核 (B20.1)、～	～次いで帯状疱疹 (B20.3)、全身性結核 (B20.0)、～
4	247	下から1行目	2) <u>ウィルス、抗原、遺伝子の検出。</u>	2) <u>PCR法による HIV- 1 RNA などの検査。</u>
4	248	2行目から6行目	HIV増殖を抑制し病状を改善する逆転写酵素阻害剤としてAZT (zidovudine) が、プロテアーゼ阻害剤としてIDV (indinavir) などが使用される。 HIV感染の早期から強力な治療を行うことが重要で多剤併用が原則である。AIDSの病態を反映する指標として近年では血中のHIV-RNAを定量的に測定する。ワクチンはない。	HIVを体内から完全に排除できる訳ではないが、その増殖を抑制し免疫力を回復する薬剤として、核酸系逆転写酵素阻害薬、非核酸系逆転写酵素阻害薬、プロテアーゼ阻害薬、インテグラーゼ阻害薬があり、3～4剤の多剤併用療法が原則で、一生内服する必要がある。HIV感染の早期から強力な治療を行うことが重要である。AIDSの病態を反映する指標として血中のHIV- 1 RNA を定量的に測定する。ワクチンはない。2016年には世界の全HIV陽性者の約53% (1,950万人) が治療を受けた。AIDS関連死は最も多かった2005年 (190万人) 以降減少し、2016年は100万人であった。
4	248	8行目から10行目	1) <u>感染者に対する差別、偏見が広まっており、感染者の秘密保持には細心の注意が必要である。</u> 2) <u>昆虫媒介感染はなく、～</u>	昆虫媒介感染はなく、～
4	249	下から9行目	4. 結核・非結核性抗酸菌感染症 (B20.0、B20.1)	4. 結核・非結核性抗酸菌感染症 (B20.0)

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
4	250	1行目から10行目	6. 悪性リンパ腫 (B21.1) 7. カポジ肉腫 (B21.0)	HIV 関連の主な悪性新生物として、悪性リンパ腫とカポジ肉腫の順番を入れ替え 6. カポジ肉腫 (B21.0) 7. 悪性リンパ腫 (B21.3)
4	250	11行目	14. その他のウイルス疾患 (B25-B34)	14. その他のウイルス性疾患 (B25-B34)
4	254	下から2行目	～による感染症。	～による人畜(獣)共通感染症。
4	257	1行目	～が多く、発症するのは抵抗力の弱い乳幼児に多い。胎盤を通して母体から胎児に感染したときは自然流産、～	～が多く、発症するのは抵抗力の弱い乳幼児や免疫不全者に多い。胎盤を通して母体から胎児に垂直感染したときは自然流産、～
4	257	5行目	2) 後天性トキソプラズマ症	2) 後天性トキソプラズマ症の患者では、脳炎、肺炎、心筋炎などが認められる。
4	257	13行目	3) AIDS ではトキソプラズマ脳炎が問題となる。	削除
4	257	17行目	1) ピリメサミン、スピラマイシンが有効。	1) ピリメタミン、スピラマイシンが有効。
4	260	8行目	いずれも、予防措置が第一で、治療薬としては <b>下</b> は <b>ガス</b> トロフィン、プラジカンテルなどがある。	いずれも、予防措置が第一で、治療として <b>上</b> は <b>ガス</b> トログラフィンによる駆虫や、プラジカンテルの内服などがある。
4	261	下から2行目	生食して数時間たって、急激な～	経口摂取数時間後、急激な～
5	265	1行目	新生物 (C00-D48)	新生物<腫瘍> (C00-D48)
5	266	2行目	悪性新生物 (C00-C97)	悪性新生物<腫瘍> (C00-C97)
5	270	15行目	2. 消化器の悪性新生物 (C15-C26)	2. 消化器の悪性新生物<腫瘍> (C15-C26)
5	275	6行目	～また、分子標的薬も使用されるようになった。	～また、分子標的薬も使用される。
5	275	7行目	免疫療法。	免疫チェックポイント阻害薬。
5	287	12行目	3. 呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物 (C30-C39)	3. 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍> (C30-C39)
5	290	下から3行目	ALK チロシンキナーゼ阻害剤。	ALKチロシンキナーゼ阻害剤が使われる。
5	290	下から2行目	～の腺癌には分子標的薬のゲフィチニブが有効である。	～の腺癌にはEGFRチロシンキナーゼ阻害薬が使われる。
5	290	下から1行目	両者ともない場合は、従来の化学療法となる。	両者ともない場合は、免疫チェックポイント阻害薬が投与されることがある。
5	291	13行目	4. 骨および関節軟骨の悪性新生物 (C40-C41)	4. 骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍> (C40-C41)
5	292	下から6行目	5. 皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物 (C43-C44)	5. 皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物<腫瘍> (C43-C44)
5	293	5行目	通常の放射線療法は効果が少ない。	通常の放射線療法は効果が少ない。根治切除不能例に対する治療として分子標的薬や免疫治療(免疫チェックポイント阻害薬)が行われる。
5	293	10行目	6. 中皮および軟部組織の悪性新生物 (C45-C49)	6. 中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍> (C45-C49)
5	293	13行目	7. 乳房の悪性新生物 (C50)	7. 乳房の悪性新生物<腫瘍> (C50)

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
5	295	17行目	8. 女性生殖器の悪性新生物 (C51-C58)	8. 女性生殖器の悪性新生物<腫瘍> (C51-C58)
5	298	5行目	9. 男性生殖器の悪性新生物 (C60-C63)	9. 男性生殖器の悪性新生物<腫瘍> (C60-C63)
5	299	5行目	10. 腎尿路の悪性新生物 (C64-C68)	10. 腎尿路の悪性新生物<腫瘍> (C64-C68)
5	299	下から1行目	2) チロシンキナーゼ阻害剤であるスニチニブが使われる。	2) 切除不能または遠隔転移に対して分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の投与や放射線治療がなされる。
5	301	1行目	11. 眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物 (C69-C72)	11. 眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物<腫瘍> (C69-C72)
5	302	3行目	～を行う。一部の腫瘍では、患部に～	～を行う。一部の腫瘍では、患部に～
5	302	8行目	12. 甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物 (C73-C75)	12. 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍> (C73-C75)
5	303	6行目	～であるが、レンバチニブが新たな抗癌剤として加わった。	～であるが、分子標的薬レンバチニブが新たな抗癌剤として加わった。
5	303	7行目	13. リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物 (C81-C96)	13. リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍> (C81-C96)
5	303	9行目	悪性リンパ腫 Malignant lymphoma (C81-C85)	悪性リンパ腫 Malignant lymphoma (C81-C86)
5	303	12行目	～によってホジキン病 (Hodgkin' s disease) (C81) と非ホジキンリンパ腫 (non-Hodgkin' s lymphoma) (C82 - C85) に分かれる。わが国では～	～によってホジキンリンパ腫 (Hodgkin' s lymphoma) (C81) と非ホジキンリンパ腫 (non-Hodgkin' s lymphoma) (C82 - C86) に分かれる。わが国では～
5	303	14行目	～残りがホジキン病である (欧米ではホジキン病が30～50%を占める)。	～残りがホジキンリンパ腫である (欧米ではホジキンリンパ腫が30～50%を占める)。ICD-10 2013年版では疾病概念の定義が明確化されるとともにグレード(I～Ⅲb)等を区分して細分化された。
5	303	下から8行目	1. ホジキン病 Hodgkin' s disease (C81)	1. ホジキンリンパ腫 Hodgkin' s lymphoma (C81)
5	304	6行目	2. 非ホジキンリンパ腫 Non-Hodgkin' s lymphoma (C82-C85)	2. 非ホジキンリンパ腫 Non-Hodgkin' s lymphoma (C82-C86)
5	304	7行目	ホジキン病以外の悪性リンパ腫をいう。	ホジキンリンパ腫以外の悪性リンパ腫をいう。
5	304	15行目	2) その他、体重減少、発熱など、ホジキン病と共通する。	2) その他、体重減少、発熱など、ホジキンリンパ腫と共通する。
5	308	1行目	14. 上皮内新生物 (D00-D09)	14. 上皮内新生物<腫瘍> (D00-D09)
5	308	6行目	15. 良性新生物 (D10-D36)	15. 良性新生物<腫瘍> (D10-D36)
5	308	7行目	大腸ポリープ Polyp of colon (D12)	結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物<腫瘍> Benign neoplasm of colon, rectum, anus and anal canal (D12)
5	312	1行目	良性脳腫瘍 Benign brain tumor (D32-D33)	良性脳腫瘍 Benign neoplasm of meninges, brain and other parts of central nervous system (D32, D33, D35.2-35.4)

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
5	315	最下部に追加		【免疫チェックポイント阻害薬】 生体内に侵入した病原体や体内にできたがん細胞を排除する免疫系の細胞は抗原を認識することで活性化されるが、同時に暴走しないようにチェックポイント(検問所)でブレーキをかける仕組みがある。がん細胞はこの仕組みを利用して免疫細胞からの攻撃を回避している。免疫チェックポイント阻害薬は、免疫系にブレーキをかける分子に対する抗体であり、投与することでがん細胞に対するT細胞の攻撃が活性化されがん細胞を死滅させる。代表的な薬物としてPD-1分子やCTLA-4分子に対する抗体薬があり、進行して切除不能な悪性黒色腫に使われる。適応は拡大されつつあり、切除不能な非小細胞肺癌、腎細胞癌、頭頸部癌、胃癌に対しても使われている。
6	330	3行目	～汎血球減少を示す。(「Tea Time」p.322を参照)	～汎血球減少を示す。(「Tea Time」p.326を参照)
6	332	10行目	1) <sup>てきひ</sup> 摘脾をする場合がある。	1) <sup>ひてき</sup> 脾摘をする場合がある。
6	337	9行目	Disseminated intravascular coagulation [DIC] [Defibrination syndrome] (D65)	Disseminated intravascular coagulation [DIC] [defibrination syndrome] (D65)
6	339	5行目	フォンウ<ヴ>イルブランド<ト>病 Von Willebrand's disease (D68.0)	フォンウ<ヴ>イルブランド<ト>病 von Willebrand's disease (D68.0)
6	339	下から5行目	～滲出をきたす疾患。男児に好発するが、成人にも発症する。	～滲出をきたす疾患。 <u>小児期</u> に好発するが、成人にも発症する。
6	343	下から1行目	～記載した。C94.5、D47.1、D75.8などを参照。	～記載した。C94.4、D47.1、D75.8などを参照。
6	357	15行目	3) 糖尿病神経障害 (diabetic neuropathy) (E14.4)	3) 糖尿病神経障害 (diabetic neuropathy) (E14.4 †)
6	366	12行目から下	表8. 下垂体副腎機能検査	削除
6	374	6行目	Disorder of amino-acid transport, cystinuria (E72.0)	Disorder of amino-acid transport, cystinuria (E72.0)
6	374	11行目	Disorder of sulfur-bearing amino-acid metabolism, homocystinuria (E72.1)	Disorder of sulfur-bearing amino-acid metabolism, homocystinuria (E72.1)
6	374	15行目	その他の糖代謝異常 Other disorders of carbohydrate metabolism (E74)	その他の糖代謝異常 Other disorders of carbohydrate metabolism (E74)
6	375	8行目	リポたんぱく<蛋白>代謝障害およびその他の脂(質)血症、脂質異常症 Disorder of lipoprotein metabolism and other lipidaemias (E78), hyperlipidemia (E78.5)	リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症、脂質異常症 Disorder of lipoprotein metabolism and other lipidaemias (E78), hyperlipidemia (E78.5)
6	377	1行目	ポルフィリンおよびビリルビン代謝障害 Disorders of porphyrin and bilirubin metabolism (E80)	ポルフィリン及びビリルビン代謝障害 Disorders of porphyrin and bilirubin metabolism (E80)
6	377	下から7行目	ミネラル<鉱質>代謝障害 Disorder of mineral metabolism (E83)	ミネラル<鉱質>代謝障害 Disorder of mineral metabolism (E83)
6	379	下から9行目	その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害 Other disorders of fluid, electrolyte and acid-base balance (E87)	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害 Other disorders of fluid, electrolyte and acid-base balance (E87)
6	386	1行目	【ホルモンの種類と分類】	【代表的なホルモンの種類と分類】

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
6	386	4行目 から下	1) 視床下部ホルモン 副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン corticotropin-releasing hormone CRH 成長ホルモン放出ホルモン growth hormone-releasing hormone GRH <u>ゴナドトロピン放出ホルモン<sup>*1)</sup></u> gonadotropin-releasing hormone GnRH <u>甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン</u> thyrotropin-releasing hormone TRH <u>ソマトスタチン</u> somatostatin (成長ホルモン放出抑制因子) (somatotropin release inhibiting factor) SRIF	1) 視床下部ホルモン 副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン corticotropin-releasing hormone CRH 成長ホルモン放出ホルモン growth hormone-releasing hormone GRH
6	386	11行目 から下	2) 下垂体後葉ホルモン バソプレッシン <sup>*2)</sup> vasopressin オキシトシン oxytocin ニューロフィジン neurophysin	2) 下垂体後葉ホルモン バソプレッシン <sup>*1)</sup> vasopressin オキシトシン oxytocin
6	386	15行目 から下	3) 下垂体前葉ホルモン 副腎皮質刺激ホルモン adrenocorticotropic hormone ACTH <u>β-リポトロピン</u> β-lipotropin β-LPH <u>β-エンドルフィン</u> β-endorphin β-EP 成長ホルモン growth hormone GH プロラクチン prolactin PRL 卵胞刺激ホルモン follicle-stimulating hormone FSH 黄体化ホルモン luteinizing hormone LH 甲状腺刺激ホルモン thyroid-stimulating hormone TSH	3) 下垂体前葉ホルモン 副腎皮質刺激ホルモン adrenocorticotropic hormone ACTH 成長ホルモン growth hormone GH プロラクチン prolactin PRL 卵胞刺激ホルモン follicle-stimulating hormone FSH 黄体化ホルモン luteinizing hormone LH 甲状腺刺激ホルモン thyroid-stimulating hormone TSH
6	386	24行目 から下	4) 下垂体中葉ホルモン <u>α-色素胞刺激ホルモン<sup>*3)</sup></u> α-melanocyte-stimulating hormone α-MSH <u>β-色素胞刺激ホルモン<sup>*3)</sup></u> β-melanocyte-stimulating hormone β-MSH	削除
6	386	27行目 から下	5) カルシウム調節ホルモン カルチトニン calcitonin CT パラソルモン (副甲状腺ホルモン) parathyroid hormone PTH	4) カルシウム調節ホルモン カルチトニン calcitonin CT パラソルモン (副甲状腺ホルモン) parathyroid hormone PTH
6	386	30行目 から下	6) 膵ホルモン <sup>*4)</sup> インスリン insulin グルカゴン glucagon 膵ペプチド pancreatic polypeptide PP	5) 膵ホルモン <sup>*2)</sup> インスリン insulin グルカゴン glucagon

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
6	386	34行目から下	<p>7) 消化管ホルモン*5)</p> <p>ガストリン gastrin</p> <p>セクレチン secretin</p> <p>コレシストキニン・パンクレオチミン cholecystokinin/pancreozymin CCK</p> <p>血管作動性腸ペプチド vasoactive intestinal polypeptide VIP</p> <p>胃抑制性ペプチド gastric inhibitory polypeptide GIP</p> <p>モチリン motilin</p> <p>腸管グルカゴン enteroglucagon</p> <p>P物質 substance P SP</p> <p>ニューロテンシン neurotensin</p> <p>ガストリン放出ペプチド gastrin-releasing peptide GRP</p>	<p>6) 消化管ホルモン*3)</p> <p>ガストリン gastrin</p> <p>コレシストキニン・パンクレオチミン cholecystokinin/pancreozymin CCK</p> <p>血管作動性腸ペプチド vasoactive intestinal polypeptide VIP</p> <p>胃抑制性ペプチド gastric inhibitory polypeptide GIP</p>
6	387	2行目から下	<p>8) 胎盤ホルモン</p> <p>ヒト絨毛性ゴナドトロピン human chorionic gonadotropin hCG</p> <p>ヒト絨毛性ソマトマンモトロピン human chorionic somatomammotropin hCS</p>	<p>7) 胎盤ホルモン</p> <p>ヒト絨毛性ゴナドトロピン human chorionic gonadotropin hCG</p> <p>ヒト絨毛性ソマトマンモトロピン human chorionic somatomammotropin hCS</p>
6	387	5行目から下	<p>9) 卵巣ホルモン</p> <p>リラキシン relaxin</p>	削除
6	387	7行目から下	<p>10) 腎ホルモン</p> <p>エリスロポエチン erythropoietin</p> <p>レニン renin</p>	<p>8) 腎ホルモン</p> <p>エリスロポエチン erythropoietin</p> <p>レニン renin</p>
6	387	10行目から下	<p>11) 肝</p> <p>アンギオテンシノーゲン angiotensinogen</p>	<p>9) 肝</p> <p>アンギオテンシノーゲン angiotensinogen</p>
6	387	12行目から下	<p>12) 心</p> <p>心房性ナトリウム利尿ペプチド atrial natriuretic peptide ANP</p> <p>脳性ナトリウム利尿ペプチド brain natriuretic peptide BNP</p>	<p>10) 心</p> <p>心房性ナトリウム利尿ペプチド atrial natriuretic peptide ANP</p> <p>脳性ナトリウム利尿ペプチド brain natriuretic peptide BNP</p>
6	387	15行目から下	<p>13) 副腎髄質</p> <p>エンケファリン enkephalin</p>	削除
6	387	下7行	<p>*1) luteinizing hormone-releasing hormone : LH-RHとも呼ばれる。</p> <p>*2) 抗利尿ホルモン antidiuretic hormone ADH と～</p> <p>*3) ヒト下垂体にはほとんど存在しない。</p> <p>*4) ソマトスタチンは隣ホルモンにも数えられる。</p> <p>*5) ホルモンとして作用するものと、～</p>	<p>*1) 抗利尿ホルモン antidiuretic hormone ADH と～</p> <p>*2) ソマトスタチンは隣ホルモンにも数えられる。</p> <p>*3) ホルモンとして作用するものと、～</p>
7	391	1行目	精神および行動の障害 (F00-F98)	精神及び行動の障害 (F00-F99)
7	396	下から5行目	～ビタミン類の投与を行う。また、振戦せん妄の既往のあるものには、アルコールと交叉耐性のあるベンゾジアゼピン系薬物の投与を行いせん妄を予防する。 他の薬物依存にも～	～ビタミン類の投与を行う。 他の薬物依存にも～
7	398	6行目	持続性妄想性障害 Persistent delusional disorder (F22)	持続性妄想性障害 Persistent delusional disorders (F22)
7	399	1行目	急性一過性精神病性障害 Acute and transient psychotic disorder (F23)	急性一過性精神病性障害 Acute and transient psychotic disorders (F23)

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
7	400	1行目	統合失調感情障害 Schizoaffective disorder (F25)	統合失調感情障害 Schizoaffective disorders (F25)
7	401	下から1行目	抗躁薬を中心とした～	気分安定薬、抗てんかん薬を中心とした～
7	402	下から3行目	持続性気分 [感情] 障害 Persistent mood [affective] disorder (F34)	持続性気分 [感情] 障害 Persistent mood [affective] disorders (F34)
7	403	下から11行目	恐怖症性不安障害 Phobic anxiety disorder (F40)	恐怖症性不安障害 Phobic anxiety disorders (F40)
7	405	下から12行目	その他の不安障害 Other anxiety disorder (F41)	その他の不安障害 Other anxiety disorders (F41)
7	407	下から6行目	重度ストレスへの反応および適応障害 Reaction to severe stress, and adjustment disorder (F43)	重度ストレスへの反応及び適応障害 Reaction to severe stress, and adjustment disorders (F43)
7	409	14行目	解離性 [転換性] 障害 Dissociative [conversion] disorder (F44)	解離性 [転換性] 障害 Dissociative [conversion] disorders (F44)
7	411	4行目	身体表現性障害 Somatoform disorder (F45)	身体表現性障害 Somatoform disorders (F45)
7	412	11行目	摂食障害 Eating disorder (F50)	摂食障害 Eating disorders (F50)
7	413	11行目	非器質性睡眠障害 Nonorganic sleep disorder (F51)	非器質性睡眠障害 Nonorganic sleep disorders (F51)
7	414	14行目	特定のパーソナリティ障害 Specific personality disorder (F60)	特定のパーソナリティ障害 Specific personality disorders (F60)
7	418	5行目	習慣および衝動の障害 Habit and impulse disorder (F63)	習慣及び衝動の障害 Habit and impulse disorders (F63)
7	419	1行目	性同一性障害 Gender identity disorder (F64)	性同一性障害 Gender identity disorders (F64)
7	423	3行目	多動性障害 Hyperkinetic disorder (F90)	多動性障害 Hyperkinetic disorders (F90)
7	423	14行目	行為障害 Conduct disorder (F91)	行為障害 Conduct disorders (F91)
7	423	下から2行目	～行為障害 (F92.2)」、[反抗挑戦性障害～	～行為障害 (F91.2)」、[反抗挑戦性障害～
7	424	1行目	チック障害 Tic disorder (F95)	チック障害 Tic disorders (F95)
7	429	11行目	2. 主に中枢神経を障害する系統萎縮症 (G10-G13)	2. 主に中枢神経を障害する系統萎縮症 (G10-G14)
7	432	下から11行目	～ドーパミン不足であり、最も有効な治療はL-ドーパ補充を中心とし、その副作用に配慮した多剤併用療法である。	～ドーパミン不足であり、ドーパミン前駆物質であるL-ドーパやドーパミン受容体刺激薬を投与する。
7	433	6行目	～アルツハイマー病の割合は約30%である。	～アルツハイマー病の割合は約50%である。
7	433	下から9行目	～アセチルコリンエステラーゼ阻害剤 (アリセプト) は認知症の進行を～	～アセチルコリンエステラーゼ阻害剤 (ドネペジル、リバスチグミンなど) は認知症の進行を～
7	436	下から3行目	気道確保、ジアゼパムの静注、フェノバルビタールの筋注。難治例では～	気道確保、ジアゼパム、フェニトイン、フェノバルビタールなどの静注。難治例では～
7	437	下から7行目	～血管による圧迫例では外科的治療が有効である。	～血管による圧迫例では外科的治療 (微小血管減圧術) が有効である。
7	469	1行目	良性発作性頭位眩暈症 benign paroxysmal positional vertigo (H82)	良性発作性頭位眩暈症 benign paroxysmal positional vertigo (H81.1)

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
8	490	下から9行目	直接縫合または欠損口が大きいとテフロンによるパッチを縫着し閉鎖。	直接縫合または欠損口が大きい場合はパッチを縫着し閉鎖。
8	490	下から8行目	近年、カテーテルによる閉鎖術も行なわれる。	近年、経皮術に閉鎖デバイスによる閉鎖術も行なわれる。
8	494	11行目	これらの手術後、成長してから根治手術を行う場合がある。	これらの手術後、成長してから根治手術を行う。
8	495	2行目に追加		肺血管抵抗を下げる薬剤による治療が行われることもある。
8	497	4行目	2) 症候性高血圧 Symptomatic hypertention (I15)	2) 症候性高血圧 Symptomatic hypertension (I15)
8	504	5行目	アスピリン、塩酸チクロピジン、ワルファリン、ヘパリンナトリウムなど。	アスピリン、塩酸チクロピジン、クロピドグレル、ワルファリン、ヘパリンナトリウムなど。
8	536	1行目	閉塞性血栓性血管炎<バージャー病>	閉塞性血栓性血管炎<バージャー病>
8	539	11行目	下肢静脈瘤 Varicose vein of lower extremities (I83)	下肢静脈瘤 Varicose veins of lower extremities (I83)
8	540	下から4行目	痔核 Hemorrhoids (I84) 直腸末端の静脈叢が拡張したもので、存在する部位が肛門括約筋の内側か外側かで内痔核と外痔核に分けられる。出血と疼痛が主な症状。内痔核は出血、外痔核は出血と疼痛が特徴。	9章 P607 に移動 痔核 Hemorrhoids (K64) 直腸末端の～ 肛門膿瘍、肛門周囲膿瘍～と 7. 腹膜の疾患 (K65-K67) の間に移動
8	549	14行目	2. インフルエンザおよび肺炎 (J10-J18)	2. インフルエンザ及び肺炎 (J09-J18)
8	549	15行目	インフルエンザ Influenza (J10-J11)	インフルエンザ Influenza (J09-J11)
8	567	5行目	1) 先天性気管支拡張症：出生時に～	1) 先天性気管支拡張症 (Q33.4)：出生時に～
8	567	7行目	<カルタゲナー症候群 Kartagener syndrome (Q89.3) >	<カルタゲナー症候群 Kartagener syndrome (Q87.8) >
9	607	12行目に追加		痔核 Hemorrhoids (I84) 直腸末端の静脈叢が拡張したもので、存在する部位が肛門括約筋の内側か外側かで内痔核と外痔核に分けられる。出血と疼痛が主な症状。内痔核は出血、外痔核は出血と疼痛が特徴。
9	617	4行目	2) C型ではウイルス排除を目的にインターフェロン療法が主となるが、ウイルス量が少ないほど効果がある。B型肝炎の場合は35才未満はインターフェロン療法、35才以上はエンテカビルが第一選択である。	2) C型ではウイルス排除を目的に直接作用型抗ウイルス薬による治療が主となるが、ウイルス量が少ないほど効果がある。B型肝炎の場合は35才未満はインターフェロン療法、35才以上は核酸アナログ製剤が第一選択である。
9	673	2行目	前立腺特異抗原 (PA)、直腸指診、～	前立腺特異抗原 (PSA)、直腸指診、～
9	673	下から15行目	～前立腺を縮小させる。PAを下げる作用があり、～	～前立腺を縮小させる。PSAを下げる作用があり、～

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
10	701	下から7行目	<p>従来、妊娠中毒症と呼ばれてきた病態は、2005年4月から妊娠高血圧症候群の名称に改められた（日本産科婦人科学会）。</p> <p>妊娠20週以降分娩後12週まで高血圧が認められる場合、または高血圧に蛋白尿を伴う場合のいずれかで、かつこれらの症状が単なる妊娠の偶発合併症によるものではないものを妊娠高血圧症候群と呼ぶ。</p> <p>従来の妊娠中毒症の定義には高血圧、蛋白尿の他浮腫が含まれていたが、改定された定義では浮腫は除かれた。</p>	<p>従来、妊娠中毒症と呼ばれてきた病態は、2005年から妊娠高血圧症候群の名称に改められ、さらに2016年より英文表記をhypertensive disorder of pregnancy [HDP] に変更された（日本産科婦人科学会）。</p> <p>妊娠時に高血圧が認められた場合を、妊娠高血圧症候群と診断する。</p>
10	702	1行目	<p>【妊娠高血圧症候群の病型分類（新分類）】</p> <p>1) 妊娠高血圧 (gestational hypertension) 妊娠20週以降にはじめて高血圧が発症し、分娩後12週までに正常に復する場合をいう。</p> <p>2) 妊娠高血圧腎症 (preeclampsia) 妊娠20週以降にはじめて高血圧が発症し、かつ蛋白尿を伴うもので、分娩後12週までに正常に復する場合をいう。</p> <p>3) 加重型妊娠高血圧腎症 (superimposed preeclampsia) (1) 高血圧症 (chronic hypertension) が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降蛋白尿を伴う場合をいう。 (2) 高血圧と蛋白尿が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降いずれか、または両症状が増悪する場合をいう。 (3) 蛋白尿のみを呈する腎疾患が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降に高血圧が発症する場合をいう。</p> <p>4) 子癇 (eclampsia) 妊娠20週以降にはじめてけいれん発作をおこし、てんかんや二次性けいれんが否定されるもの。 けいれん発作のおこった時期により妊娠子癇、分娩子癇、産褥子癇と呼ぶ。</p>	<p>【病型分類（新分類）】</p> <p>1) 妊娠高血圧腎症 (preeclampsia : PE) (1) 妊娠20週以降に初めて高血圧を発症し、かつ、蛋白尿を伴うもので、分娩12週までに正常に復する場合。 (2) 妊娠20週以降に初めて発症した高血圧に、蛋白尿を認めなくても以下のいずれかを認める場合で、分娩12週までに正常に復する場合。 ①基礎疾患のない肝機能障害 ②進行性の腎障害 ③脳卒中、神経障害 ④血液凝固障害</p> <p>2) 妊娠高血圧 (gestational hypertension : GH) 妊娠20週以降に初めて高血圧を発症し、分娩12週までに正常に復する場合で、かつ妊娠高血圧腎症の定義にあてはまらないもの。</p> <p>3) 加重型妊娠高血圧腎症 (superimposed preeclampsia : SPE) ①高血圧が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降に蛋白尿、もしくは基礎疾患のない肝腎機能障害、脳卒中、神経障害、血液凝固障害のいずれかを伴う場合。 ②高血圧と蛋白尿が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降にいずれかまたは両症状が増悪する場合。 ③蛋白尿のみを呈する腎疾患が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降に高血圧が発症する場合。 ④高血圧が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降に子宮胎盤機能不全を伴う場合。</p> <p>4) 高血圧合併妊娠 (chronic hypertension : CH) 高血圧が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、加重型妊娠高血圧腎症を発症していない場合。</p>
10	702	18行目	<p>【妊娠高血圧症候群の症状による亜分類】</p> <p>収縮期血圧160mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上、または高度の蛋白尿（2g/日）を伴う場合を重症、それ以外を軽症と分類する。</p>	<p>【症状による亜分類】</p> <p>妊娠高血圧症、妊娠高血圧腎症、加重型妊娠高血圧腎症、高血圧合併症において、血圧が収縮期血圧160mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上の場合、重症と規定する。</p> <p>妊娠高血圧腎症、加重型妊娠高血圧腎症において、母体の臓器障害または子宮胎盤機能不全を認める場合、蛋白尿の多寡による重症分類は行わない。</p>
10	702	下から11行目	<p>【発症時期による病型分類】</p> <p>妊娠32週未満に発症するものを早発型 (early onset type : EO)、妊娠32週以降に発症するものを遅発型 (late onset type : LO) とする</p>	<p>【発症時期による病型分類】</p> <p>妊娠34週未満に発症するものを早期型 (early onset type : EO)、妊娠34週以降に発症するものを遅発型 (late onset type : LO) とする。</p>

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
10	703	下から12行目	<p><b>【合併症】</b>            常位胎盤早期剥離、DIC、肺水腫、網膜剥離、子癇、HELLP症候群などがある。</p> <p>1) HELLP症候群            本症候群は妊産褥婦に溶血 (Hemolysis)、肝酵素上昇 (Elevated Liver enzyme)、血小板減少 (Low Platelet)などを主徴とする症候群で、多くは妊娠高血圧腎症病変の存在下で発症する。            悪心、嘔吐、心窩部・季肋部痛などを初発症状とすることが多く、急速に母体にDICを引き起こしたり、胎児の状態を悪化させるので早期に妊娠の中断が必要とされる。</p> <p>2) 子癇 (eclampsia)            妊娠高血圧症候群の最重症の病型で、妊産婦死亡の主な原因の一つである。            その頻度は全妊婦の0.2～0.5%とされ、妊娠子癇、分娩子癇、産褥子癇があり、分娩子癇がもっとも多く、産褥子癇はごく少ない (頻度は不明)。</p>	<p><b>【関連疾患】</b></p> <p>1) 子癇 (eclampsia)            妊娠20週以降に初めて痙攣発作を起こし、てんかんや二次性痙攣が否定されるものをいう。痙攣発作の起こった時期によって、妊娠子癇、分娩子癇、産褥子癇と称する。子癇は大脳皮質での可逆的な血管原性浮腫による痙攣発作と考えられているが、後頭葉や脳幹などにも浮腫を来とし、各種の中樞神経障害を呈することがある。</p> <p>2) HDPに関連する中枢神経障害            皮質質、可逆性白質脳症 (posterior reversible encephalopathy syndrome : PRES)、高血圧に伴う脳出血および脳血管攣縮などが含まれる。</p> <p>3) HELLP症候群            妊娠中、分娩時、産褥時に溶血所見 (Hemolysis)、肝機能障害 (Elevated Liver enzyme)、血小板数減少 (Low Platelet)を同時に伴い、他の偶発合併症によるものではないものをいう。            悪心、嘔吐、心窩部・季肋部痛などを初発症状とすることが多く、急速に母体にDICを引き起こしたり、胎児の状態を悪化させるので早期に妊娠の中断が必要とされる。</p> <p>4) 肺水腫            HDPでは血管内皮機能障害から血管透過性を亢進させ、しばしば浮腫をきたす。重症例では、浮腫のみでなく肺水腫を呈する。</p> <p>5) 周産期心筋症            心疾患の既往のない女性が、妊娠、産褥期に突然心不全を発症し、重症例では死亡に至る疾患であり、HDPが重要なリスク因子となる。</p>
10	719	3行目	※「切迫早産」はO47に含まれるが、記述の都合上、本項で言及する。	削除
11	747	下から7行目	薬疹 Drug eruption (L27)	薬疹 Drug eruption (L27.0, L27.1)
11	748	下から12行目	痒疹 prurigo (L28)	慢性単純性苔癬及び痒疹 Lichen simplex chronicus and prurigo (L28)
11	756	下から5行目	褥瘡 Decubitus, Pressure sore, Bed sore (L89)	褥瘡 Decubitus, Pressure sore, Bed sore (L89.0-89.9)
11	756	下から5行目		ICD-10 2013年版では、ステージにより細分化された。
11	759	17行目	ヘノッホ・シェーンライン症候群 (アナフィラクトイド紫斑)	IgA血管炎 (アナフィラクトイド紫斑)
11	760	9行目	白癬 Tinea (B35)	皮膚糸状菌症 Dermatophytosis (B35)
11	760	下から12行目	1) 浅在性真菌症 (tinea superficialis) (1) 足白癬 (tinea pedis) : ~ (2) 爪白癬 (tinea unguium) : ~ (3) 手白癬 (tinea manus) : ~ (4) 股部白癬 (tinea cruris) : ~ (5) 体部白癬 (tinea corpus) : ~ (6) 顔白癬 (tinea faciei) : ~ (7) 頭部白癬 (tinea capitis) : ~ (8) 異型白癬 (tinea incognita) : ~	順番入れ替えあり 1) 浅在性真菌症 (tinea superficialis) (1) 顔白癬 B35.0 (tinea faciei) : ~ (2) 頭部白癬 B35.0 (tinea capitis) : ~ (3) 爪白癬 B35.1 (tinea unguium) : ~ (4) 手白癬 B35.2 (tinea manus) : ~ (5) 足白癬 B35.3 (tinea pedis) : ~ (6) 体部白癬 B35.4 (tinea corpus) : ~ (7) 股部白癬 B35.6 (tinea cruris) : ~ (8) 異型白癬 B35.9 (tinea incognita) : ~

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
11	761	1行目	2) 深在性真菌症 (tinea profunda) (1) Celsus (ケルスス) 禿瘡 (kerion celci) : ~ (2) 白癬菌性毛瘡 (sycosis trichophytica) : ~ (3) 白癬菌性肉芽腫 (granuloma trichophyticum) : ~	2) 深在性真菌症 (tinea profunda) (1) ケルスス (Celsus) 禿瘡 B35.0 (kerion celci) : ~ (2) 白癬菌性毛瘡 B35.0 (sycosis trichophytica) : ~ (3) 白癬菌性肉芽腫 B35.8 (granuloma trichophyticum) : ~
11	761	16行目	カンジダ症 皮膚カンジダ症 Cutaneous candidiasis (B37)	カンジダ症 Cutaneous candidiasis (B37)
11	761	下から10行目	1) 皮膚カンジダ症 (cutaneous candidiasis) (1) カンジダ性間擦疹 (candida intertrigo) : ~ (2) カンジダ性指趾間びらん症 (erosio interdigitalis blastomycetica (interdigital candidiasis)) : ~ (3) カンジダ性爪囲爪炎 (candidal paronychia and onychia) : ~ (4) 爪カンジダ症 (candida onychomycosis) : ~	1) 皮膚カンジダ症 B37.2 (cutaneous candidiasis) (1) カンジダ性間擦疹 B37.2 (candida intertrigo) : ~ (2) カンジダ性指趾間びらん症 B37.2 (erosio interdigitalis blastomycetica (interdigital candidiasis)) : ~ (3) カンジダ性爪囲爪炎 B37.2 (candidal paronychia and onychia) : ~ (4) 爪カンジダ症 B37.2 (candida onychomycosis) : ~
11	762	1行目	2) 粘膜カンジダ症 (mucosal candidiasis) (1) 口腔カンジダ症 (oral candidiasis) : ~ (2) 性器カンジダ症 (genital candidiasis) : ~	2) 粘膜カンジダ症 (mucosal candidiasis) (1) 口腔カンジダ症 B37.0 (oral candidiasis) : ~ (2) 性器カンジダ症 (外陰部、膣) B37.3 (亀頭) B37.4 (genital candidiasis) : ~
11	764	12行目	1) 口唇ヘルペス (herpes labialis) : ~ 2) ヘルペス性歯肉口内炎 (herpes gingivostomatitis) : ~ 3) 性器ヘルペス (genital herpes) : ~ 4) ヘルペス性瘰癧 (herpes whitlow) : ~	1) 口唇ヘルペス B00.1 (herpes labialis) : ~ 2) ヘルペス性歯肉口内炎 B00.2 (herpes gingivostomatitis) : ~ 3) 性器ヘルペス A60.0 (genital herpes) : ~ 4) ヘルペス性瘰癧 B00.8 (herpes whitlow) : ~
11	765	1行目	疣贅 Verruca (B07) 【分類・症状・治療】 1) 尋常性疣贅 (verruca vulgaris) : ~ 2) 扁平疣贅 (flat wart) (同義語: 青年性扁平疣贅 (verruca plana juvenilis)) : ~ 3) 尖圭コンジローム (condyloma acuminatum) : ~ 4) Bowen 様丘疹症 (bowenoid papulosis) : ~ 5) 疣贅状表皮発育異常症 (epidermodysplasia verruciformis) : ~ 6) 伝染性軟属腫 (molluscum contagiosum) : ~	ウイルス性いぼ<疣贅> Verruca (B07) 【分類・症状・治療】 1) 尋常性疣贅 B07 (verruca vulgaris) : ~ 2) 扁平疣贅 B07 (flat wart) (同義語: 青年性扁平疣贅 (verruca plana juvenilis)) : ~ 3) 尖圭コンジローム A63.0 (condyloma acuminatum) : ~ 4) ボーエン様丘疹症 B07 (bowenoid papulosis) : ~ 5) 疣贅状表皮発育異常症 Q82.8 (epidermodysplasia verruciformis) : ~ 6) 伝染性軟属腫 B08.1 (molluscum contagiosum) : ~

章	第8版第2刷		旧 2016.7 (第8版第2刷)	新 2016.7 (第8版第3刷)
	ページ	行など		
11	765	下から10行目	<p>1. メラノサイト系母斑</p> <p>1) 母斑細胞母斑 (nevus cell nevus) : ~</p> <p>&lt;通常型&gt;</p> <p>(1) 境界母斑 (junctional nevus) : ~</p> <p>(2) 真皮内母斑 (intradermal nevus) : ~</p> <p>(3) 複合母斑 (compound nevus) : ~</p> <p>&lt;特殊型&gt;</p> <p>(1) 巨大先天性色素性母斑 (giant congenital melanocytic nevus) : ~</p> <p>(2) 分離母斑 (divided nevus) : ~</p> <p>(3) 爪甲線条母斑 (nevus striatus unguis) : ~</p> <p>(4) Sutton (サットン) 母斑 (Sutton nevus) : ~</p> <p>(5) Spitz (スピッツ) 母斑 (Spitz nevus) : ~</p> <p>(6) 異型母斑 (dysplastic nevus) : ~</p> <p>2) 真皮メラノサイト系母斑</p> <p>(1) 青色母斑 (blue nevus) : ~</p> <p>(2) 太田母斑 (nevus of Ota) : ~</p> <p>(3) 後天性真皮メラノサイトーシス (acquired dermal melanocytosis) : ~</p> <p>(4) 蒙古斑 (mongolian spot) : ~</p>	<p>1. メラノサイト系母斑</p> <p>1) 母斑細胞母斑 (D22.0-22.9) (nevus cell nevus) : ~</p> <p>&lt;通常型&gt;</p> <p>(1) 境界母斑 D22.9 (junctional nevus) : ~</p> <p>(2) 真皮内母斑 D22.9 (intradermal nevus) : ~</p> <p>(3) 複合母斑 D22.9 (compound nevus) : ~</p> <p>&lt;特殊型&gt;</p> <p>(1) 巨大先天性色素性母斑 D22.9 (giant congenital melanocytic nevus) : ~</p> <p>(2) 分離母斑 D22 (divided nevus) : ~</p> <p>(3) 爪甲線条母斑 D22.6, D22.7 (nevus striatus unguis) : ~</p> <p>(4) Sutton (サットン) 母斑 D22.9 (Sutton nevus) : ~</p> <p>(5) Spitz (スピッツ) 母斑 D22.9 (Spitz nevus) : ~</p> <p>(6) 異型母斑 D22.9 (dysplastic nevus) : ~</p> <p>2) 真皮メラノサイト系母斑</p> <p>(1) 青色母斑 D22.0-D22.9 (blue nevus) : ~</p> <p>(2) 太田母斑 D22.3 (nevus of Ota) : ~</p> <p>(3) 後天性真皮メラノサイトーシス L81.8 (acquired dermal melanocytosis) : ~</p> <p>(4) 蒙古斑 D22.5 (mongolian spot) : ~</p>
11	766	16行目	<p>2. 上皮細胞系母斑</p> <p>1) 表皮母斑 (epidermal nevus) : ~</p> <p>2) 脂腺母斑 (nevus sebaceous) : ~</p> <p>3. その他の母斑</p> <p>扁平母斑 (nevus spilus) : ~</p>	<p>2. 上皮細胞系母斑</p> <p>1) 表皮母斑 Q82.5 (epidermal nevus) : ~</p> <p>2) 脂腺母斑 D22.9 (nevus sebaceous) : ~</p> <p>3. その他の母斑</p> <p>扁平母斑 D22.9 (nevus spilus) : ~</p>
11	767	下から6行目	9. 皮膚のその他の悪性新生物 (C44)	9. 皮膚のその他の悪性新生物<腫瘍> (C44)
11	771	下から7行目	~をフェルティ (Felty) 症候群という。	~をフェルティ (Felty) 症候 (M05.0) 群という。
11	773	18行目	炎症性サイトカインの生物活性を阻止する方法として、TNF に対する抗体療法や可溶性レセプター療法が開始され、臨床症状の改善だけでなく、関節破壊を阻止するものとして注目を浴びている。	炎症性サイトカインの生物活性を阻止する方法として、TNF 阻害薬や IL6 阻害薬、JAK 阻害薬、CTLA-4 による T 細胞活性阻害療法が行われ、臨床症状の改善だけでなく、関節破壊を阻止する効果がある。
11	776	7行目	結節性多発(性)動脈炎 Polyarteritis nodosa [PN] (M30.0)	結節性多発(性)動脈炎 Polyarteritis nodosa [PN] (M31.7)
11	780	下から6行目	抗 DNA 抗体補体価低下。	抗 DNA 抗体陽性、補体価低下。
11	787	18行目	3. 変形性脊柱障害 (M40-M54)	3. 脊柱障害 (M40-M54)
11	803	1行目	4. 結節性筋膜炎 Nodular fasciitis (M72.3)	4. 結節性筋膜炎 Nodular fasciitis (M72.4)
11	808	11行目	~と使い分けるが、どちらも同じ病変である。	~と使い分けるが、どちらも同じ病態である。

MEMO

MEMO